

日本ライトハウス盲導犬訓練所って、どんなところ？

01 THE HISTORY 沿革



昭和48年 第1号リンダ(山下瑞子氏)



平成29年 第700号イルミ

日本ライトハウスは目の見えない方・見えにくい方を照らす「陸の灯台」として1922年、岩橋武夫が点字図書の製作を開始したことに始まります。その後点字図書の貸出や盲人援護事業を行いました。1965年に日本最初の視覚障がいリハビリテーションセンターを開設しました。

1970年には盲導犬育成事業を開始し、1973年には第1号の盲導犬「リンダ」が誕生しました。2017年には700頭目の盲導犬「イルミ」が卒業し、現在も西日本を中心に、当訓練所を卒業した盲導犬たちが利用者のパートナーとして活躍しています。

盲導犬は利用者を安全に誘導すると同時に心の支えになる大切なパートナーです。盲導犬の存在によって、利用者は大きな行動の自由と心の絆を得ることができます。盲導犬の普及は目の見えない・見えにくい方にとって大きな意義をもつものといえます。

02 SERVICE 事業内容

当訓練所では盲導犬の育成を通して目の見えない方・見えにくい方の支援を行っています。

- ・盲導犬の育成(繁殖・子犬育成・訓練)
- ・視覚障がいを持つ方への盲導犬貸与(共同訓練)
- ・現地での訪問訓練
- ・フォローアップ(貸与後の訪問訓練)
- ・啓発活動(学校や企業などへの講演、各地イベント参加)
- ・盲導犬育成のための募金活動など



もうどうけんけい! はっせんたい! 盲導犬啓発宣隊 ★デモ犬ジャー★



デモ犬(デモンストレーションを行う犬)とは

お話や訓練の実演によって
盲導犬の啓発を行うのがデモ犬です。
盲導犬訓練所では盲導犬の理解と協力のため
デモ犬ジャーと共に盲導犬の
普及活動を行っております。

訓練所の
マスコット
キャラクター

03 CURRENT GUIDE DOG 盲導犬の現状

日本には11法人の盲導犬訓練施設があり、941頭(2018年5月1日調査)の盲導犬が活躍しています。盲導犬を希望する人は、少なくとも3,000名以上いると推測され、まだまだ盲導犬の普及が進んでいないのが現状です。

2002年10月には「身体障害者補助犬法」が施行され、公共交通機関や商業施設など、さまざまな場所で盲導犬が受け入れられるように義務付けされています。しかし、今でも宿泊施設や病院などで利用を拒否されることが多いのが現状です。

04 HOW TO GET 盲導犬を取得するには

お住まいになっている地域の役所、もしくは都道府県の障害福祉課にお申し込みください。
(地域によって申し込み期限があります)
当訓練所にもお気軽にご相談下さい。

取得条件

視覚障害等級1～2級またはそれに準ずる方
※弱視の方もご相談ください。

年齢18歳以上(上限はありません)

盲導犬と生活、歩行できる健康状態の方
※人工透析、疾病をお持ちの方はご相談ください。

経済的に月1万～1万5千円程度
ご負担できる方

費用について

盲導犬は無償で貸与

共同訓練を受ける際の
施設利用料(月5万円程度)は自己負担
※利用日数によって異なります。